

# 東総地域の教育環境における飲酒 筆子塚の分析を中心にして

川崎史彦

Drinking in the Educational Environment in the Toso Region: a Study Based on the Fudekozuka

はじめに

- ① 東総地域の生活環境にみる飲酒
- ② 房総地域における師匠の飲酒
- ③ 教育を受けた側の飲酒への姿勢

おわりに

## 【論文要旨】

本稿は、教育環境の問題としてあらわされる飲酒の問題に視点を定めた。特に、十九世紀の飲酒に対する認識の変容に注目した。先行研究では、明治期に戦争との関わりで飲酒が制限される点が示された。本稿では、この戦争以前の、飲酒への対応について探る必要上、飲酒に触れやすい生活環境に関わる史料が多く見られた東総地域をフィールドに、筆子塚の碑文や幽学門人に関わる史料を用いて検討を行った。

第一章では、先行研究の史料の記述を再構成し、東総地域では、飲酒に接しやすい環境にあるからこそ飲酒を忌避する対応もみられる点を示した。

第2章では、師匠と教育を受けた側の飲酒に関する記述の特徴について、東総地域と房総の他地域を比較しながら検討した。特に東総地域で、十八世紀前半以降、飲酒が行動を乱すものとみる事例を確認した。十九世紀後半、飲酒後の暴行や禁酒の事例も、戦争や愛国との関係で飲酒を止める事例も、同地域で見ることができた。

第3章では、東総地域で教育を受けた者の生活環境を考察した。同地域には飲酒に言及する門人も多く存在した。師匠の飲酒を間接的に肯定していた教え子が、幽学門人になつたり、国家の動向に沿うなどの形で、飲酒に対して否定的な態度に移行した点も示した。幽学門後、生業中に酒を飲まなくなる状況も見ることができた。さらに、東総地域では、幽学門人の中にも、飲酒に肯定的な態度と、否定的な態度を持つ者がいて、その両者が交錯する点を把握した。

これらの検討から、東総地域で、飲酒への抑制の姿勢を確認した。明治期の戦争の時期に飲酒に対する規制が試みられる以前の、十八世紀前半に既に、筆子塚には、飲酒に節度が必要と考える記述が見られた。飲酒を抑制する記述は、十九世紀後半により明確になっていく。すなわち、飲酒を忌避する姿勢を前提に、その流れの中から、明治期の飲酒への対応が生まれたものと結論づけた。